

平成26年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(峰地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**平成26年度 第4回
まちづくり懇談会《峰地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《峰地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成26年8月7日（木）午後6時30分～午後8時
- 2 開催場所 峰小学校体育館
- 3 参加者数 153人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当参事，東市民活動センター所長，道路建設課長，広報広聴課長

5 懇談内容

(1) 地域代表あいさつ

峰地区連合自治会 会長

(2) 市長あいさつ

(3) 地域代表意見

No	テーマ	所管課
1	LRTの利用について	LRT整備推進室 交通政策課
2	峰地域コミュニティセンターについて	みんなでまちづくり課 学校管理課 生涯学習課

(4) 総合計画の6つの柱に基づく意見交換

テーマ		
市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために (1)高齢期の生活を充実する (2)都市の福祉力を高める (3)日常生活の安心感を高める		
No	テーマ	所管課
1	峰地区の公共交通の整備について	交通政策課

(5) 自由討議

No	テーマ	所管課
1	LRTについて(1)	LRT整備推進室
2	地域役員について	みんなでまちづくり課 高齢福祉課
3	LRTについて(2)	LRT整備推進室 産業政策課 商工振興課
4	区画整理について	東部区画整理事業課
5	国道4号線(峰町交差点から泉が丘交差点)及び市道935号線について	生活安心課 道路保全課
6	JR宇都宮駅東口ロータリーについて	道路保全課 LRT整備推進室
7	成人式会場について	生涯学習課
8	バスのルート・到着時刻の周知について	交通政策課

(6) 市長謝辞

■地域代表意見 1（要旨）

テーマ	L R Tの利用について
------------	---------------------

L R Tの導入が決定されたようだが、沿線から離れた地域、特に高齢者等はバスなどの公共交通機関での乗り場への移動が必須の条件と考えられる。

そこで周辺の交通網、特に峰地区の住民が利用すると思われる陽東地区の大規模商業施設付近に設置される交通結節点、計画ではトランジットセンターとあるが、このトランジットセンターまでの交通網が現在は充分ではない。この取組について考え方を示してほしい。

また、峰地域のバスの運行の現状は国道 123 号である石井街道と鬼怒通りだけである。主要道路に生活交通かデマンド交通の運行など、公共の生活道路網の整備運行について実現していただきたいと思う。

回答	所管課： L R T整備推進室、交通政策課
-----------	------------------------------

【市長】

宇都宮市では平成 28 年度の着工を目標として L R Tの整備を進めている。

当面、J R 宇都宮駅東から清原工業団地、そしてテクノポリスセンター、そこからホンダの正門前まで芳賀町が参入して整備をする予定になっている。この整備にあたっては、当然のことながら L R Tと効率的につながるバスネットワークなども新たに整備をしていかなければならない。

そして、I Cカードを作っていきたいと考えている。I Cカードに持ち主の情報をインプットし、例えば、70 歳以上の高齢者の方は降りる際に高齢者割引されたり、学生も学生割引されるほか、3 か月定期券や半年定期券により割引率が高くなるというような I Cカードを作るとともに、将来的には L R Tだけではなく、バス路線や J R 線などでも共通で使えるようにしていきたいと考えている。

また、L R Tと鉄道・バス・タクシー等を円滑に利用出来るような利用者の利便性を図っていくとともに、周辺地域の拠点性を高める交流、サービスなどの機能を備えた交通結節点の整備についても検討をしていく。

陽東地区には大規模商業施設があり、路線バスやタクシーの乗降場が設けられているとても大きなエリアであるが、多くの市民の皆様が集まるので、交通結節点として安全で快適に利用出来るようにバスなどの乗降場とのアクセスを考慮した停留場等の整備にも取り組んでいく。

また、峰地区は、御指摘のとおり、国道 123 号を經由する郊外行きのバス路線や J R 宇都宮駅から陽東地区のベルモール施設を結ぶバス路線が運行している。L R Tの整備と合わせたバスネットワークの再編を進める中で、既存バス路線の南北方向の充実や L R Tとの効率的な接続も更に利便性の向上に繋がるので、検討していく。

峰地区を含めた市街地部では公共交通不便地域の解消などの課題がある。現在、市役所、東武宇都宮駅、蓬萊大黒通りなどにおいて、社会実験で新たにバス路線を設置

した。駅東では平松本町線を社会実験でバス路線を設置している。これからは行政とバス事業者が連携を図りながら、公共交通不便地域にバス路線等を設置していきたいと思っている。

コミュニティバスやデマンド交通も生活の中では必要になってくるので峰地区についても、今後、事業者や地元の方々の御意見をいただきながら調査をして行きたいと考えている。

■地域代表意見 2（要旨）

テーマ	峰地域コミュニティセンターについて
------------	--------------------------

峰地域コミュニティセンターの出入口は西側の駐車場に位置し、児童の通路である昇降口に面しているため、学校の休み時間など日常的に危険を感じている。

地域の各団体などの活動時には特に出入りが混雑に直面している。

また、夕方になると留守家庭児童会の子どもの迎えにより大変混雑している状況にあることから、児童の安全確保の面で大変心配をしている。

そこで、峰地域コミュニティセンターの南側に 400 平方メートル程度の空き地がある。これを市で購入または借り上げて、コミュニティセンターの活動の際や留守家庭児童会の子どもの迎え時の駐車場として利用することにより児童の安全確保が出来ると思うので検討をお願いする。

回答	所管課：みんなでまちづくり課，学校管理課，生涯学習課
-----------	-----------------------------------

【市長】

市街地においてコミュニティセンターは、生活の中で欠かせない施設の一つであるが、現況において、峰地域コミュニティセンターの駐車場の駐車台数は少ないほうではなく、一応は充実している状況になっている。

そうした中で、400 平方メートル程の空き地があるということだが、これを新たに購入することは現状では難しいものと考えている。

ただし、子ども達の安全面もあるので、学校側との協議をしながら、留守家庭児童会からの動線の安全確保ができるよう、また、子ども達が安全に登下校することが出来るよう、例えば子ども達が歩く部分を何かで仕切るとか路面への注意表示などを学校側と協議して対応していきたいと思う。また、協議の内容については逐次報告し、アドバイスをいただきたいと思うのでよろしく願います。

■総合計画の6つの柱に基づく意見交換（要旨）

テーマ	市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために (1) 高齢期の生活を充実する (2) 都市の福祉力を高める (3) 日常生活の安心感を高める
-----	--

総合計画とは宇都宮市が進むべきまちづくりの方向性、宇都宮の羅針盤のようなものである。

(1) 高齢期の生活を充実する

本年度、宇都宮市には100歳以上になる方が267人いる。最高齢者は109歳の女性であり、男性の最高齢は107歳だが、267人中、男性は40人しかいない。

長生きをすることは良いことだが、併せて健康寿命を延ばしていくことが必要だと思う。いつまでも健康で、長生きをしていただくことは超高齢社会では理想の姿であると思う。何よりも高齢者の方は知恵と経験が豊かである。これからの社会の中でそうした経験を生かしていただくことは大きな宇都宮市の財産でもあるので、元気溢れる高齢者の方が地域で活躍できる機会を創出することが必要である。

また、高齢者が自らも介護予防に積極的に取り組み、住み慣れた地域の中で健康で生きがいを持ち、介護が必要になったとしても、その尊厳を保持しながら安心して自立した生活を送っていくという、今後5年間での望ましい姿として目標に設定をした。

いつまでも支える側になっていただきたいと思うが、介護が必要になったとしても、生き生きと生活し、適切な介護を受けることができる社会を目指していきたいと考えている。

そのための事業であるが、高齢者の社会参画の推進、認知症対策や介護保険事業の充実を行っていききたいと思う。具体的には高齢者の方が地域において社会貢献活動やボランティア活動が出来る環境をつくり、ボランティア活動をポイント制にして、貯まったポイントは、介護保険の保険料として使えたり、買い物の際の払いに使えたり出来るようにする。現在、10月からの一部先行実施に向け、準備を進めている。来年度から本格的に実施出来るように、これから内容を詰めていきたいと思っている。

さらに、様々なイベントや事業、特に地区で行われている自治会の事業やまちづくりの事業に参加をしていただくことも必要になる。

また、栃木県主催のねんりんピックが10月4日からスタートする。宇都宮市のほかにもいくつかの市や町を会場として競技を行う。宇都宮ではサッカー、インディアカ、弓道、太極拳、健康マージャンの5つの競技が行われる。健康長寿につながるということで皆様にも様々な事業に参画をしていただきたいと思う。

(2) 都市の福祉力を高める

宇都宮市は超高齢社会に突入し、世帯数については 65 歳以上の一人暮らしの世帯を中心に今後も増えて行く見込みとなっている。

また、災害時において、弱者が孤立せず安心して暮らせるまちづくりが必要になる。

そして地域や事業者等の連携強化を図りながら、地域住民が共に手を取り合い、助け合い支え合う地域づくりが必要になる。

そうした理由から、充実した保健・福祉サービスにより、住み慣れた地域において自立した生活を送ることが出来ることを今後 5 年間の望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた事業として、地域福祉ネットワークの形成支援、孤立死の防止対策の推進、生活困窮世帯への支援などを掲げた。

平成 26 年度からの新しい事業として、生活困窮者の自立相談等への支援として市総合福祉センターに相談窓口を設置したほか、老人福祉センターなど 6 か所で相談受付を行っている。また、生活保護世帯の中学生を 1 か所に集めて、学校の予習、復習や宿題等の勉強の支援を行い、来ることが出来ない子どもへは通信教育のように添削をして子ども達の学力向上支援を行うこととした。また、高校進学相談も出来る体制を現在整えている。

(3) 日常生活の安心感を高める

宇都宮市では空き家や空き地が適正管理されていない状態が見うけられる。

生活環境を害する問題やおれおれ詐欺や還付金等の詐欺をはじめ特殊詐欺被害が増えている。

地域ぐるみの活動を促進するとともに市民、事業者、行政の連携を強め、日常生活の安心感を高めることが重要である。

これらの理由から地域社会や事業者、行政が連携を取り、日常生活を取り巻く様々な不安を解消する、そして市民が安全で安心な生活を送っているということを、今後 5 年間の望ましい姿として目標に設定した。

目標を達成するための主な事業は、地域の防犯環境整備の推進、交通安全教育の推進などである。特に防犯環境は、空き家対策として市が危険回避のために緊急措置を実施する。例えば持ち主に依頼や指導をしても改善されない場合や、台風などの災害被害の発生がするおそれがある場合には市が倒れかけた木を伐採したり飛ばされそうな瓦やトタンを撤去するなどの緊急対応措置が出来るようにした。

空き家条例においては、適正な理由が無く改善命令に従わない場合には、持ち主の氏名などを公表するほか、過料を取るなどの対策を行っていきたいと考えている。

また、人口千人あたりの刑法犯認知件数、交通事故の発生件数を極力少なくしていきたいとも考えている。

発言 1 峰地区の公共交通の整備について

峰地区は非常に高齢化が進んでいる。今一番問題になっているのは生活するための買い物が出来ないということであり、買い物弱者が非常に増えている。国道 123 号と鬼怒通りに挟まれているのが峰地区である。宇都宮大学の前にある小さな道路や産業通りや峰小学校の横の通りの辺りに交通手段が出来ると高齢者は非常に助かる。スーパーに行くための交通手段がない。例えばデマンド交通などの交通手段が出来ればありがたいので早急に交通組織について考えていただきたい。

回答 所管課：交通政策課

【市長】

代表意見と同じ意見だと思うが、現在、郊外には公共交通不便地域が点在している。バスが全く走らない、バスが走っていても一日数本で、バス停まで何キロも歩かなければならず、車が無いと生活が出来ない地域もある。そうした地域に現在、11 路線のデマンドタクシーや定時定路型のジャンボタクシーによる地域内交通の配置をしている。

まず、そうした地域の整備をしていきたいと思っているが、峰地区についても今から備えていくことが必要だということで意見をいただいているのだと思う。先程申し上げた通り、コミュニティバスやデマンド交通などは中心市街地や市街地においても必要になってくるので、事業者と協議をしながら調査を進めていきたいと思う。

また、地域の意見を伺わずに作ってしまうと利便性が悪くなり、結局は利用されず、継続出来なくなるので、地域の御意見をいただきながら今後も進めていきたいと思う。

■自由討議（要旨）

発言 1 LRTについて（1）

LRTは鬼怒通りを通ると思うが、LRTが通ることについて、鬼怒通り沿いの住民に詳しい説明は未だ無いと思う。自分が住んでいる所は片側二車線、両方で四車線である。想像するに、LRTは自動車の幅よりも広いので、LRTが鬼怒通りのセンターレーンを通ることにより車道が片側一車線になると、この通りの車の交通量はものすごい量になり、歩道も現在よりも狭く削られてしまうと歩行者や自転車の通行にも非常に危険が伴うと考えている。この点について、住民として話を伺っていないのでどのような計画でこの路線をつくるのかを聞きたい。

また、市が示している建設費は数億円と聞いているが、建設労働者不足、人件費の高騰、資材の高騰により、建設費も高騰するのではないかと思う。人口もこれからは減少する。いつまでも清原地区に大企業が居続けるとは限らない。そうなった時に利用者は少なくなると思う。

回 答	所管課： L R T 整備推進室
------------	-------------------------

【市長】

現在も皆様からいただいた御意見に対して説明をさせていただいている。また、オープンハウスも行いながら、ショッピングセンターなどで説明を行っている。

ルートについてはまだ確定しておらず、二車線が一車線になるか、交差点がどのように改良されるか、歩道はどのような影響を受けるかについてもまだ確定していない。それらが確定した際は、その都度、ルート以外についても説明をさせていただきたいと考えている。

警察と協議をしながら、渋滞がこれ以上悪くなることなく、渋滞が減るようにするが、安全面についても警察の承諾がないと事業は前に進まないの、警察や交通事業者などの意見もいただきながら進めていきたい。

先日、峰地区で出前講座をしたが、出前講座に回数制限はないので要望いただきたいと思う。

資金面について、人件費や資材等の高騰があるが、宇都宮市の財政の身の丈の中で行っていきたくと考えている。身の丈を超えるような場合は行政としても当然慎重にならざるを得ないし、市民の皆様も納得しないと思う。身の丈の中で宇都宮の財政に影響が無いように行っていく。

さらに、経済波及効果がある。現在、人口が減少していく中で清原工業団地の企業も減ってしまうということも当然考えられると思う。清原工業団地の企業がなくなると宇都宮市の税収は本当に大きな影響を受ける。7割の従業員が宇都宮市から通っていると思われる芳賀工業団地においても同様である。企業がなくなることを絶対に食い止め、企業を逃がさないためにも交通渋滞をなくし、公共交通により短い時間で、決まった時間の中で通勤が出来る環境を整えていきたいと考えている。

再質問	L R T について (1)
------------	-----------------------

2016年に着工するならあと2年である。着工することが分かっているならば既にガイドラインは出来ていると思う。市役所にパンフレットがあり、車線は一車線になると載っていた。これを市長はご存知だと思うが、その点を伺いたい。

回 答	所管課： L R T 整備推進室
------------	-------------------------

【市長】

ルートについては、例示としておおよその部分を表記しているが、正確なものはまだ出ていない。交通事業者、道路管理者、警察との協議が全て終了していないので発表出来る段階には来ていないが、大体のガイドラインとして出したものである。正確なものが出た上で示していきたいが、交通の安全性、歩行者との安全性、交差点改良の問題も現在協議をしているので、公表できるようになれば当然皆様にも説明をさせ

ていただきたいと思う。

発言 2 地域役員について

宇都宮市はLRT事業，ネットワーク型コンパクトシティやごみの減量化などのまちづくりの精神を培っているかと思う。まちづくりは市民一人一人が認識を持ち推進して，足並みそろえて行わないと達成出来ない。また，繁栄していかないと思う。その一人一人の集合体が単一自治会並びに連合自治会ではないかと思っている。単位自治会や連合自治会の現況としては，一度会長職を受けると次期会長を受ける方がおらず，高齢化していく。高齢化してバトンタッチが出来ないという大変苦勞している状況である。

指導者がこのような状況ではまちづくり推進にブレーキがかかるのではないかと思う。県の事業でシルバー大学があり大勢の方が勉強している。地域での活動や福祉事業の活動，趣味の活動の勉強をしていると聞くと，卒業後の地域デビュー活動に向けた人材育成の場であると思う。しかし，自分の知る限りでは地域デビューし，活発に活動している人はあまり見受けられない。むしろカラオケやハイキングやゴルフなどの趣味の活動を見出していると見受けられるが，それではシルバー大学の趣旨に沿っていないと思う。運営は県税で賄っていると思うが，卒業実態調査を市と連携して行い，活動してもらえぬ人材を指名し，地域に戻って活動してもらいたい。

回答 所管課： みんなでまちづくり課， 高齢福祉課

【市長】

我々にとっては参考になる御意見である。高齢化社会を止めることは難しく，高齢者の方が長生きをしていただくのは本当に良い社会だと思っている。あとは高齢者の方がまだまだ引退をせずに社会を支えていただく側に回っていただきたいと思う。

自身の経験や知恵のほかに新たな経験を積まれた方は社会の宝であるので，そうした方の出番づくりや居場所づくりも市としてもしっかり考えて行きたいと思う。

現在，市ではシルバー人材センターのほかに，どういう分野で活躍が出来るかという相談窓口を設けているが，県に話をして，提案の卒業後にどういう生活をしているのか，実際に社会で貢献活動をしているのかの調査をしていただくとともに，出来れば市と県，あるいは他の市町と一体となり，出番づくりや居場所づくりも県と連携して取り組むことが出来ればよいのではないかと思うので，県へ投げかけたと思う。

発言 3 LRTについて (2)

先日峰地区で行った説明で，LRTの構築や公共交通の資料をいただいた。この内

容について、質問がある。

一つ目は、最低限の年間収入プランに通勤者等からの収入が5億8千万円と記載がされていた。運賃は100円から400円とのことだが、収入計算をするのに高値の400円を掛けている。なぜ、運賃の最高金額を掛けているのか分からない。平均の200円で算出すべきではないのか。学生からの収入は8,500万円となっており、これも400円で計算している。

また、JR本社に問い合わせたところ、一般定期券は通常運賃の53%、大学生は30%、中学生は21%の掛け値だそうである。しかし、LRTの場合は、一般定期券は60%、学生は50%としており、これらを集計して7億4千4百万円の年間収入としている。これは赤字対策のためのでっちあげの数字だと思う。正確に計算すると4億円あるいは3億円の収入にしかならない。当然赤字である。赤字では困るのでこういうことをやったのではないか。市長はどう考えているのか答えてほしい。

二つ目は、市長は当初、事業費が360億円と言っていたが、380億円になり、先日は385億円になり、どんどん増えている。これでは400億円を越えてしまう。富山市は4年経過していて赤字である。人口については群馬、栃木、茨城、富山とも減少している。自動車の普及率は、栃木県が一位、群馬県が二位、LRTを設置した富山県が三位である。先日、説明をした職員はLRTが走ることにより自動車を買う必要がなくなると言った。これについて市長はどう思うか伺いたい。

回 答	所管課：LRT整備推進室、産業政策課、商工振興課
------------	---------------------------------

【市長】

一つ目の定期券の料金と最低運賃から最高運賃について、市としては言ったことが守れなければ当然責任を取らなければならないし、それは必ず分かることになる。どんなことを言っても必ず現実が待っており、現実を知っている我々としては今、きちんと正しい数字を積算して皆様に示しているだけである。

二つ目の自動車を買わなくて済むから良いなどと言う職員はいない。市は自動車産業をはじめ、宇都宮に立地している様々な大企業、中小企業、零細企業のおかげで税収が安定し、宇都宮のまちづくりが持続出来ている。一社たりとも、どんな小さな店でも宇都宮市としては倒産に追い込まず、これからも持続経営が出来るまちをつくりていきたいと思う。これからも工業団地の方には研究政策活動を続けていただきたいと思っているので、自動車産業であろうがどのような産業であっても市としては支援をしていきたいと考えている。

【総合政策部長】

最低限の需要見込の積算の根拠がおかしいのではないかとの御指摘について、最低での需要見込を出す際には、現在、清原工業団地の従業員の方々にJR宇都宮駅東口から清原工業団地まで車で通っていたり企業バスを利用したりしている方々がどのくらいLRTに乗り換えていただけるかという数字が最低限の需要見込を出す際の対象

範囲である。一般のお客様ではなく、清原工業団地に通勤している方や作新学院大学の学生がLRTにどの程度転換するか、その転換率をおさえれば最低の見込が出来るだろうということと、LRTは実際にはいくつもの停留場が出来る。停留場毎に料金が違うのは御指摘のとおりである。

そこで、清原工業団地の従業員のアンケートが終わり、どの停留場から乗り、どの停留場で降りるということまで大体分かってきたので、最低限の利用見込についても現時点でまた塗り替えている。単価と乗降を加味した上で実際の乗降状況に近い形で最低の需要見込を見直したところである。

発言 4 区画整理について

私の自治会は宇都宮東南部区画整理地を行っている真最中である。私の自治会へ区画整理事業の進捗状況を聞かせていただきたい。

本日担当者が来ていないのであれば、こちらで宇都宮大学のUUプラザを借りるなどして日時を設定するので、担当者に来ていただき、懇談会が出来れば幸いである。

回答 所管課： 東部区画整理事業課

【市長】

そのような提案は本当にありがたい。厳しい意見も含めて、地域の方々の意見を吸い上げていながら事業を進めて行きたいと思う。今までの進捗状況とこれからの進め方、課題なども説明させていただきたいと思うので、後で連絡をして日程を決めて行きたいと思う。

【後日対応】

「出前相談会」を下記のとおり実施した。

【出前相談会概要】

・開催趣旨

事業開始より7年が過ぎ、事業の進捗、建物移転の補償や時期など様々な疑問が関係権利者の方々にあると思われることから、個別の相談に対応できる「出前相談会」を開催するもの

・対象者、日時等

対象者：宇大東南部第2土地区画整理事業地内の関係権利者

開催日：平成26年11月20日（木）～22日（土）

平成26年11月27日（木）～29日（土） の計6日間

時間：午後1時～5時

場所：平松ひかりヶ丘自治会公民館

・自治会単位で相談日を指定し、職員6名で2名3班編成により個別に説明

発言 5	国道 4 号線(峰町交差点から泉が丘交差点)及び市道 935 号線について
-------------	--

一つ目は、国道 4 号と白楊高通りが交差する泉が丘交差点があり、その南には県道 64 号（鬼怒通り）と交差する峰町交差点がある。その泉が丘交差点から峰町交差点まで約 600 メートルあるが、その間に横断歩道などが一つも無い。泉が丘交差点を北に行くと東警察署の交差点付近だが、その間は約 900 メートルあり、信号が 2 か所、歩道橋が 1 か所ある。600 メートルというとかなり長い距離なのでなぜ無いのか疑問に思っていた。

二つ目は、峰小学校前の道路についてだが、峰小学校前の道は南に行くと国道 123 号（石井街道）に、北に行くと白楊高通りにぶつかる。歩道が片側にあるが、歩道と言える状態ではないと思っている。一応ガードレールもあり、児童は安全に通学出来ると思うが、人ひとりがやっと通れる状態で、反対側から自転車が来ると自転車はよけて車道へ出てくれるがそれも大変危ないと思う。歩道は側溝の蓋が続いており、歩くたびにガタガタと揺れ、ベビーカーや車椅子の方もかなり不便だと思う。道幅も狭いので何か良い方法があれば是非直していただきたいと思う。

回答	所管課：生活安心課、道路保全課
-----------	------------------------

【市長】

(1) 国道 4 号線（峰町交差点から泉が丘交差点）について

国道 4 号の信号等について、所管へ伝えて御連絡したいと思う。信号や歩道橋の設置をしていただきたいということになれば地域で意見をまとめて、地域の総意として提出していただければ警察や国も受け取りやすいと思う。

(2) 市道 935 号線について

峰小学校東側の歩道であるが、現在、宇大東南部等の区画整理事業を行っているが、大変狭い道路があり、住宅が密集している。恐らく道路が出来る前に住宅街が出来上がってしまったのでこのような状況になったのだと思う。新たに片側に歩道を設置する、あるいは道路幅員を広げるとなると、寄附または大がかりな区画整理事業が必要になる。時間もかかり、住民の方々の同意も必要になる。また、自転車の走行は歩道ではなく車道である。歩行者やベビーカーの方、車椅子の方が先ずは安全に通行出来るように、でこぼこしているところは市が応急措置であっても手直しをして行きたいと思うので見させていただくとともにそういう場所があれば、御指摘をいただけると大変ありがたいのでよろしく願います。修繕が必要な箇所といつ頃に修繕をするということの後で連絡をする。

【後日対応】

(1) 国道 4 号について

宇都宮東警察署を訪問し、地域から要望がある旨を伝えた。発言者本人へ状況を報告し、今後は地域の総意として具体的な設置場所や理由等を取りまとめた上で、所管の宇都宮東警察署へ事前に相談の上、直接要望を提出願いたい旨を伝えた。

(2) 市道 935 号線について

現地調査を行ったところ、歩道内に敷設されている側溝蓋が全体的にがたついており、電柱が建っている箇所については歩道幅員が狭い状況となっていることを確認した。側溝蓋のがたつきは、部分的な蓋の交換やがたつきの防止策ではなく、全体的な修繕工事が必要となる状況である。また、道路を拡げることについては、隣接する住民の方々の了解をいただく必要もあり、長期間になり困難である。そのため、現在の車道と歩道を含めた道路幅員の中で地元自治会と協議を行いながら、歩道の修繕工事について検討していく。

上記内容について発言者本人へ報告、御理解をいただいた。

発言 6 JR宇都宮駅東口ロータリーについて

JR宇都宮駅東口へ自家用車で送り迎えをしてもらう際、送迎に使える車線が非常に少ない。市長には金曜日の晩に行っていただきたい。送迎用は一車線しか無いのに対し、タクシーなどはゆとりがある。何とかやりようが無いものか。JRの管轄になるのだろうか。もう少し送迎車に対する配慮があってしかるべきではないかと市から働きかけていただきたい。しかも渋滞している所を駅の係員などが交通整理をしているのかと思ったが、全く行われていない。迎えに来てでも迎えの相手がまだ到着していないと迎えの車は停まったままであり、後続の車両はそれに付き合わなくてはならず、とても非効率である。今の時代、宇都宮市のやることではないのではないのか。

二点目は、LRTに大賛成である。餃子しかない宇都宮にLRTというシンボライズしたものが出現する。自分もヨーロッパで利用したが、LRTは市民にとっての足、幹線、動脈になるものなので、儲かる儲からないということではなく、是非つくっていただきたい。

回答 所管課：道路保全課、LRT整備推進室

【市長】

事業者と協議をして観光バスも停車できるように一番駅に近いラインにバス専用ラインを整備した。その次にタクシー専用ラインをつくり、一番外側の三車線目を一般車両の乗降用として整備をした。当初、先ず大きな課題となったのが、滞留時間が長くまた車両も多いので降りる人の場所が無く、駐車場のようになってしまったということである。駅西側も同様だが、20分無料の駐車場を整備しているのでそこを利用していただくようにサイン表示を出して促しているが、便利なので送迎の車両はラインで独占されてしまうことがある。

そこで、降車用と乗車用の二つのラインを作り、両者が交わることがないように

した。それでも金曜日や土曜日の晩などは同じような状況だと思う。サインボードを設置して前方で降りるように表示もしている。

第2段目も今のところあまりうまくいっていないような状況なので、JRとも協議をさせていただき、もう少し効果が出るような工夫をする。国からの補助金を受けて行った事業なので、例えば歩道を削って一車線分にするなど全く新しいことをして形態を変えてしまうのは難しいので、こうすれば簡単に済むのではないかという提案もあるかと思うが、これからも更に乗りやすく降りやすいように工夫をしていきたいと考えている。

第3段の案が出来上がったら、御意見を伺いたいと思うのでよろしく願います。

二点目のLR Tについては、心強い意見をありがとうございました。もちろん賛成の方も、まだ賛成は出来ないという方もいると思う。互いに対立することがなく市の発展のためにそれぞれの意見をいただき、LR Tのほかについても宇都宮のためになるような政策にしていきたいと思うのでこれからも多くの御意見をいただきたいと思う。

発言 7 成人式会場について

宇都宮市の成人式は中学校区単位で行われている。陽東中学校区である峰小学校、陽東小学校、石井小学校の子ども達と一緒に成人式を行っている。当然、宇都宮市の成人式なので宇都宮市の予算を使って行っているわけだが、現在、陽東中学校区の成人式は昨年度までは東武グランデでやっていた。今年からは、東高等学校付属の東中学校の卒業生も成人式に加わるため東武グランデでは手狭なので、東日本ホテルを会場として盛大に成人式を執り行うことになっているということだ。その成人式の実施委員長が中学校のPTA会長なのだが、気が付いた事が何点かある。自分たちが成人式をした頃は文化会館に市内の中学生が一斉に集まり、午前と午後に分かれて行っていた。もう一度、その形態に戻してもらえないか。文化会館は改修工事で立派な施設に生まれ変わると思う。きれいで立派になった文化会館で午前と午後に分けて行っても良いと思う。

理由は二つある。一つ目は予算である。成人式に係る市の予算は傑出していると聞いている。1月の良い日の時に市内の大きなホテルのほとんどを利用して行うからである。ホテルで成人式をやるために予算をかけるのなら文化会館で二回に分けて行えば予算削減になると思う。

二つ目は市長のあいさつをビデオレターで子ども達に聞かせているが、ぜひ、市長の生の声を子ども達に聞かせてほしい。出来上がったどこからか引っ張ってきたようなマニュアル通りの挨拶文では子ども達の心には全然届かない。市長の生の言葉で成人を祝い、子ども達の未来を語っていただきたいと思う。

回答 所管課：生涯学習課

【市長】

先ず予算面では、確かに1月の日曜日の良い日にやっているのもホテル泣かせと言われている。予算があまり無いので実際はホテルの方に相当泣いてもらっている。

次に市長挨拶については、全部自分で考えてそれを読んでビデオレターで発信しているが、生で見えていただいたほうが良いというのはごもっともだと思う。

現在は、午前一か所、午後一か所を毎年順番に出席している。我々の時代の成人式は文化会館で午前と午後に分けて行っていた。過去に実施委員会の方から聞いたことがあるが、十数年前に、酒を飲んで暴れたり、騒いだりと大変問題になったので、子ども達が小さい頃から知っている地域の大人が参加をして成人式を行えばよいのではないかということで中学校区に分けてホテルで行うようになったそうである。今の子ども達は立派であり、式を静かに行えるようになったので、一か所でもいいのではないかという考えも理解できるので所管課へ伝えさせていただくとともに後で連絡をさせていただきたいと思う。

【後日回答】

文化会館を会場として実施することについては、御指摘のとおり、経費を抑制することが可能となるが、かつて文化会館において実施していた際には、2,000人規模の大きな会場である性質上、「新成人同士の親近感が乏しい」、「騒がしく厳粛さに欠ける」などの御意見のほか、新成人同士の小競り合いなどが生じることもあった。

このため、平成5年度から、これまでの課題に対応すると同時に、20歳を迎えた新成人の門出を全市をあげて祝い励ますとともに、新成人の「地域社会の一員としての自覚」や「地域に育てられたことへの感謝の気持ち」を育むことを目的に、地域をあげて祝う行事として位置づけ、各中学校区を区域として実施することとした。平成11年度からは、実施委員の方々の負担軽減や運営の円滑化を図るため、市内のホテルや結婚式場に御協力をいただき実施している。

現在の方式を導入してからは、厳粛な中にも温か味のある式典を実施することができており、新成人同士の大きなトラブルもなく親睦を深め、新成人が地域とのつながりや感謝の気持ちを改めて感じる機会となっている。毎年実施している新成人や実施委員対象のアンケート結果においても、現行方式の継続を望む御意見が7割以上を占めており、当面は現行方式で実施することが適当であると考えているが、引き続き、事業目的達成の視点とともに、新成人や実施委員からの御意見や社会環境の変化などを勘案しながら対応していく。

また、市長挨拶につきましては、従前は市長代理者による祝辞の代読を行っていたが、実施委員や御来賓の方々からの御意見を踏まえ、平成20年成人式より成人の意義がより伝わるよう市長のビデオメッセージを導入したところであり、これからも市長の思いが十分に新成人に伝わるよう取り組んでいく。

今後とも、新たに成人を迎えた若者たちが、より一層、高い志を持ち、素晴らしい未来を築いていくための励みになるよう、地域との連携を図りながら成人式事業

の円滑な運営に努めていく。

発言 8 バスのルート・到着時刻の周知について

10 日程前に L R T の話をうかがった。バスに乗る人が少ないのでバスも徐々に運行本数が少なくなってくるという話があり、それを聞きながら、バスが L R T に変わるとなぜ人は増えるのかという疑問があった。この地区に住んでいていつの間にか右回り・左回りのバスが走っていたり、ベルモール行きのバスが走っていたりして、いつから走っているのかなと思う。地方から来る人はもっと分からなくて、どのバスに乗って良いか分からないので必ずタクシー乗りますと言う。先程、この地区から公共交通が不便だという話があったが L R T を通す前にやるべきことはあると思っている。

一番お願いしたいのは、路線が出来たらそれを市民に周知する必要があるということである。自治会の回覧で回ったこともなく、バス会社のチラシを見た記憶もない。市はバス会社に支援か何かをしていると聞いたので、そうしたことを指導出来るのではないかと思っている。

そこで、L R T が出来る前に先ずバスネットワークを真剣に考えていただきたいと思う。先ずは、何行きバスはどこから出発してどこを経由して走行しているのか住民に周知してもらいたいと思う。

回答 所管課：交通政策課

【市長】

バスのルートや発着時間についてだが、バス事業者へ支援はしているが、バス事業者も大変努力をしていただいております、特に駅の発着場所では分かりやすい表示の工夫をしていただいている。また、ホームページ等でも時間やルートの掲載をしていただいているが、まだまだ市民の方々に周知出来ていないのは事実なので、行政とバス事業者が連携をして、更に分かりやすい工夫をしていきたいと思う。

また、特に新たなルートや既存のルートはしっかりと周知をしないと利用者が減ってしまい、結局は持続出来なくなってしまうので、ご指摘にあわせて進めていきたいと考えている。

余談になるが、宇都宮市には南北に鉄道があるが横軸はバスに頼っている。特に J R 宇都宮駅の西側は一日 2,000 本のバスが大通りを走っている。この横軸に L R T などが通ればわざわざ駅まで行かなくても、なかには駅直行便も必要になるので駅直行便もつくっていくことになるが、駅、停留所毎に往復をすることによってバスの本数が増え、利便性が高まっていくのでバス利用者が戻ってくるというところをバス事業者と協議をしているので、それらもこれから慎重に進めていきたいと思っている。いただいた指摘についてはきちんと対応していきたいと思う。